

計画の名称	2 京都市の都心地区における歩行者と公共交通を優先した魅力あるまちづくり									
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)			交付対象	京都市					
計画の目標	京都市の魅力と活力が凝縮した都心地区において、快適で安全な歩行環境を整備するとともに、公共交通機関の利用を促進することにより、歩行者と公共交通を優先した魅力あるまちづくりを推進する。									
計画の成果目標 (定量的指標)	①四条通のピーク時歩行者数について当初H23は5,900人/時間からH27は6,500人/時間に増加 ②京都駅南口駅前広場における鉄道と路線バスの1時間当りの利用者合計乗継時間をH27末に25%短縮する。 ③対象路線における歩道面積を20%拡大する。									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
				当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)				
①四条通のピーク時に歩道を通行する歩行者数 (人/時間) を社会実験時 (H19年度) のデータを基に算定する。				5,900 人	-	6,500 人				
②最終目標年度における鉄道と路線バスの1時間当り利用者合計乗継時間を、整備を行った場合と行わなかった場合で算定し、どれだけ短縮したかを百分率で表す。  $\left( \text{鉄道と路線バスの1時間当り利用者合計乗継時間の短縮率} \right) = \left( 1 - \frac{\Sigma (\text{ピーク時利用者数} \times \text{乗継時間}) \text{【整備あり】}}{\Sigma (\text{ピーク時利用者数} \times \text{乗継時間}) \text{【整備なし】}} \right) \times 100$				-	-	25 %				
③対象路線における歩道面積変化率  $\left( \text{対象路線歩道面積変化率} \right) = \left( \frac{\text{対象路線整備後歩道面積}}{\text{対象路線既存歩道面積}} - 1 \right) \times 100$				-	-	20 %				
全体事業費	合計 (A+B+C)	628百万円	A	584百万円	B	-	C	44百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	7.0%

事後評価 (中間評価)

○事後評価 (中間評価) の実施体制、実施時期	
事後評価 (中間評価) の実施体制	事後評価 (中間評価) の実施時期
	平成27年度末 (平成28年度への繰越事業を含む)
京都市で評価を実施	公表の方法
	京都市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 道路事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
2-A-1	街路	一般	京都市	直接	京都市	市町村道	改築	四条通	歩道拡幅 L=1.3km	京都市						165	「地域自主戦略交付金」から移行。H26より (H26-P2)へ移行
2-A-2	街路	一般	京都市	直接	京都市	市町村道	改築	八条通外1	街路・駅前広場整備 L=0.8km	京都市						419	「地域自主戦略交付金」から移行。H26より (H26-P2)へ移行
小計 (道路事業)											584						

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
合計																

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
2-C-1	計画・調査	一般	京都市	直接	京都市	計画・調査	歴史的都心地区の交通調査計画策定	計画策定 A=0.69km <sup>2</sup>	京都市						17	「地域自主戦略交付金」から移行。H26より (H26-P2)へ移行
2-C-2	計画・調査	一般	京都市	直接	京都市	計画・調査	交通施設エリアマネジメント計画策定	計画策定 A=0.01km <sup>2</sup>	京都市						2	「地域自主戦略交付金」から移行。H26より (H26-P2)へ移行
2-C-3	施設整備	一般	京都市	間接	京都市	施設整備	交通施設整備事業	駅前広場内乗降場整備 A=140m <sup>2</sup>	京都市						25	「地域自主戦略交付金」から移行
合計											44					

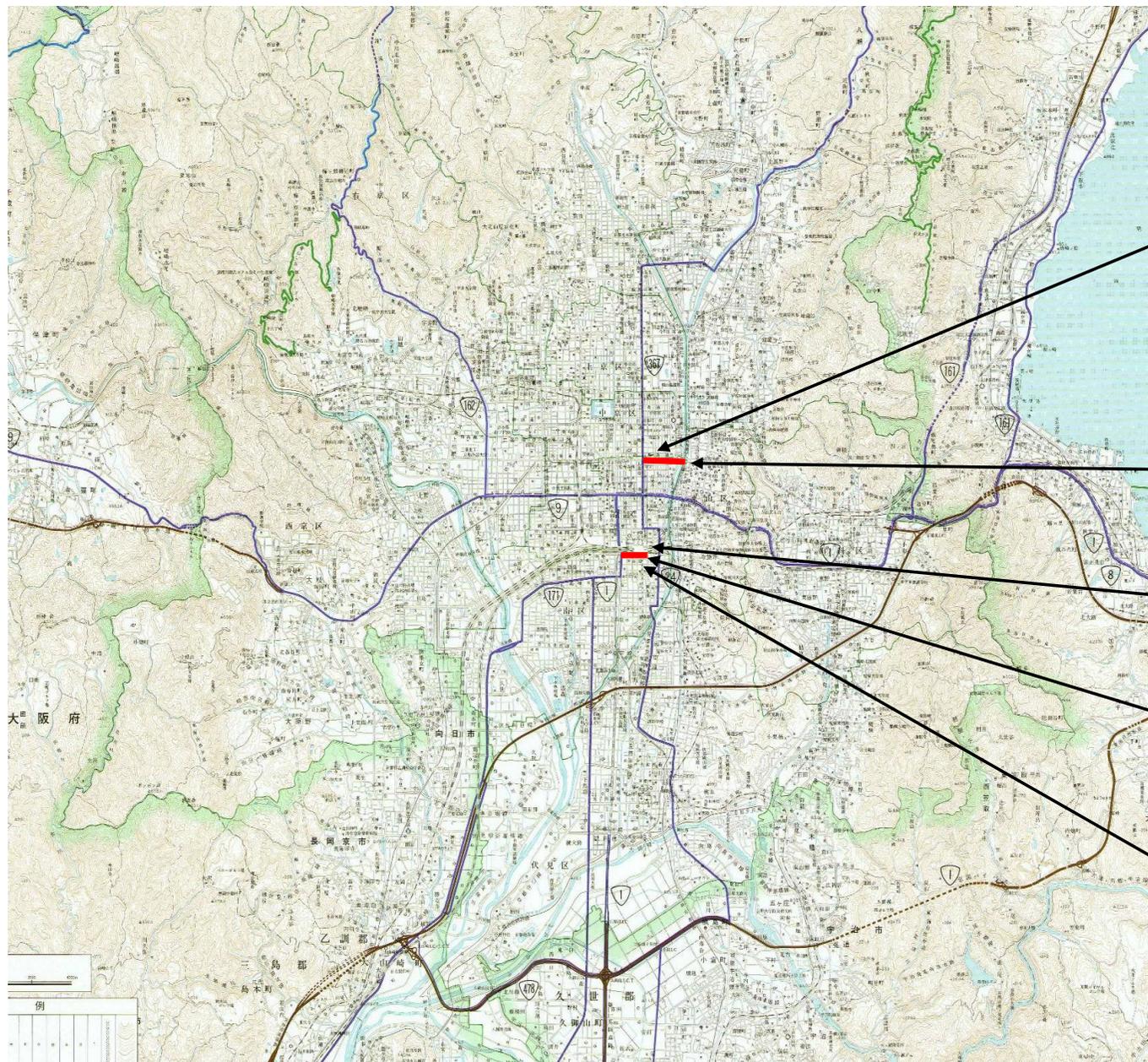
番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
2-C-1	「人が主役」の道づくりを実現するため、都心部の道のあり方を調査・計画策定し、対策を講じることにより、通過交通の抑制を図る。	
2-C-2	八条通外1の整備と一体的に、同事業で整備する京都駅南口駅前広場の交通施設のエリアマネジメント計画を策定し、交通施設の効率的な管理・運営を行うことにより、交通の円滑化を図る。	
2-C-3	八条通外1の整備と一体的に、京都駅北口駅前広場の交通施設を整備することにより、京都駅における公共交通機関の乗換え利便性の向上を図る。	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		四条通歩道拡幅整備及び京都駅八条口駅前広場整備により、歩行環境を整備した結果、歩行者の移動の快適性と安全性が向上した。			
II 定量的指標の達成状況	指標①（四条通のピーク時に歩道を通行する歩行者数の増加）	最終目標値	6,500人	目標値と実績値に差が出た要因	平成27年度道路交通センサスにおける歩行者数については、調査日の天候が雨天であり、目標値と実績値に差が出た要因の一つとして、天候による歩行者数への影響があったと思われる。
		最終実績値	5,403人		
	指標②（鉄道と路線バスの1時間当たりの利用者合計乗継時間の短縮）	最終目標値	25%	目標値と実績値に差が出た要因	目標が達成された。
		最終実績値	29%		
	指標③（対象路線における歩道面積の増加）	最終目標値	20%	目標値と実績値に差が出た要因	目標が達成された。
		最終実績値	38%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<p>四条通のピーク時に歩道を通行する歩行者数について、歩行者数の減少が見られたものの、本市の調査では、整備前（平成18年）に比べて、整備後（平成28年）の歩行者数が17%増加している。</p> <p>また、地元商店街の歩行者カウンターから算出した歩行者数によると、四条通歩道拡幅整備後、1年間（平成27年11月～平成28年10月）の歩行者数は、整備前と比べて、平均6.3%増加している。</p>			
3. 特記事項（今後の方針等）					

(参考図面) 社会資本総合整備計画

計画の名称	2 京都市の都心地区における歩行者と公共交通を優先した魅力あるまちづくり	交付対象	京都市
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度 (5年間)		



2-C-1  
歴史的都心地区の  
交通計画調査策定

2-A-1  
歩道拡幅

2-C-3  
交通施設整備

2-A-2  
駅前広場整備

2-C-2  
交通施設エリアマネジメント  
計画策定